P-119

保育所看護職が保健活動の実践に必要とする学習内容

藤田　千春[1)]、竹中香名子[2)]、小林　佳寛[1)]、谷山　　牧[3)]

[1)]杏林大学　保健学部　看護学科看護養護教育学専攻、
[2)]愛知学院大学健康科学部健康科学科、
[3)]国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科

【目的】近年の保育所看護職の役割は、子どもの成長・発達支援および健康増進支援に加え、病気や障害をもちながら過ごす子どもとの関わりも徐々に増えている。このような状況下においては、保育所看護職も保健活動を円滑に行うための学習のニーズをもっていることが想定される。そこで、本研究の目的は保育所看護職が保健活動の実践に必要とする学習内容を明らかにすることとした。【方法】関東圏内の保育所看護職に研究趣旨と内容を文書と口頭で説明し、同意が得られた場合に30～45分程度の半構造化インタビュー調査を行った。調査内容は対象者の背景、日常実施している保育保健活動と保育園看護職として保健活動を実践するために継続教育として必要とする学習内容である。得られたデータを逐語録化し質的記述的に分析した。倫理的配慮として、杏林大学保健学部倫理審査委員会の承認を得て実施した。【結果】４市町村に勤務する14名を対象とした。対象の保育所看護職は全員が独立配置で勤務していた。日常の保育保健活動は安全な生活への取り組みや園児の健康管理、保護者への育児支援であった。また、保育所看護職が保健活動の実践に必要とする学習内容は23≪サブカテゴリ≫、8〔カテゴリ〕が抽出された。保育所看護職は≪嫌がる子どもへの処置の仕方≫といった〔子どもが安心して関わらせてくれる方策〕、≪保護者からの相談技術≫などの〔看護職としての保護者対応〕や〔他職種との協働〕について学びを必要としていた。また、〔臨機応変な保健対応〕および≪幼児への性教育と伝え方≫など〔近年の課題にあった健康教育〕や〔怪我や処置技術の最新知識〕、〔緊急時対応とその知識〕に加え、≪医療的ケア技術≫や≪情緒面のフォローが必要な子どもの対応≫のような〔特別な支援が必要な子どもへの支援技術〕の学びを必要としていた事が明らかになった。【考察】近年は保育所においても医療的ケア児や発達障害をもつ児と関わる機会があるため、必要時に適切な支援ができるよう、学習ニーズが生じていたのではないかと考えられた。講義で学ぶ機会は自治体の集合研修や保育園保健師看護師連絡会などで得られる可能性が高いが、技術を経験する研修会は少ないことが想定されるため、小児シミュレーター等で実践のイメージがつかめるよう、技術面に関する継続教育の機会を企画・開催していく必要性が示唆された。

Presented by Medical*Online